

## 第8回胆振東部森林再生・林業復興連絡会議〔現地検討会〕議事録

日時 令和3年7月20日（火）13：00～16：00  
場所 安平町内道有林（胆振管理区114林班）  
出席者 別添「出席者名簿」のとおり  
議題 1 崩壊斜面において植栽を実施した施行地について  
2 崩壊斜面の土壌条件の簡易判定手法について

### 議事

森林整備課 大塚課長補佐が進行。

#### （1）議題1について

ア 構成員（胆振森林室 福士森林整備課長）から資料1説明

イ 質疑応答（有）・無

・東胆振森づくり協同組合 田中専務理事

林業試験場による実証試験や土壌調査はどのような場所で実施しているのか。

・森林整備課 大塚課長補佐

植栽の実証試験については崩壊斜面を対象とし、土壌の判定区分「良・中・悪」のそれぞれの条件で試験地を設定している。

・林業試験場 蓮井主査

現地の土壌調査については25箇所の崩壊斜面を対象に、斜面の中央部とその上下10mの位置で調査を実施している。

・森林整備課 大塚課長補佐

資料1の植栽地②の育成状況について、風倒や粘土質の土壌での酸欠による枯損が確認されたと説明があったが、どのような状況か。

・胆振森林室 福士森林整備課長

粘性土の施行地での枯損はあるものの、重機が走行し、硬く締め固められてしまった箇所に植えた苗木の枯損が多い。

・東胆振森づくり協同組合 田中専務理事

現地を見ていると、堆積地に植えたものに比べ、崩壊斜面に植えた苗木の成長が弱いように見受けられ、今後の活着に少し不安が残る。

広大な被災森林では崩壊斜面の土壌条件も不均一であり、条件の悪い箇所に植えた苗木の成長については特にこれからも観察し、検証していく必要があるだろう。

・胆振森林室 川西普及推進係長

観察プロットを設定し、今後10年20年と長期で成長状況を検証していくことが必要。

#### （2）議題2について

ア 構成員（林業試験場 蓮井主査）から資料2説明

・林業試験場 蓮井主査

（剣先スコップで実際に掘り、硬度計で測定しながら）この箇所の硬度は山中式土壌硬度計で測定すると27mmという値であり、掘削は困難と判断される。

また、透水性については目視により掘削断面にやや灰色の粘土化しつつある土壌が見受けられるものの、比較的良好と判断できる。資料2で示している判定例と照らし合わせると④の“悪”判定に該当する。

イ 質疑応答 (有)・無)

- ・土屋森林計画担当局長

この土壌は火山灰が変質したものなのか。

- ・林業試験場 蓮井主査

火山灰が変質し、粘土化しつつある状態。

- ・土屋森林計画担当局長

土壌の状態に水分は関係あるのか。

- ・林業試験場 蓮井主査

水分も少し関係あるが、掘ってしまえば大抵は多少水分を含んだ状態なので、そこで土壌条件を判断することになる。

- ・東胆振森づくり協同組合 田中専務理事

この土壌はいつの年代の火山灰が粘土化しつつあるものなのか。

- ・林業試験場 蓮井主査

約9000年前の樽前dと呼ばれる火山灰であり、それより近代の火山灰の層は崩れている。

- ・胆振森林室 川西普及推進係長

透水性については触って見ないと判断できないのか。

- ・林業試験場 蓮井主査

やや灰色なので一見粘性土のように思えるが、触ってみると粘性土とは異なることが分かる。粘性土は指でこねると細長く伸びる。

山中式土壌硬度計で25mm以下の値になる土壌であれば樹種により適・不適はあるが、根が入ることができる。

- ・東胆振森づくり協同組合 田中専務理事

望ましい樹種はどんなものか。

- ・林業試験場 蓮井主査

天然更新している樹種を見るとケヤマハンノキは適応できている。一般の造林樹種でいうと、カラマツは根が入っているものが見られる。

- ・森林整備課 大塚課長補佐

スコップを用意してあるので、参加者にも簡易判定手法を体験してほしい。

(各参加者による簡易判定手法の実施)

ウ 事務局からの情報提供 (有)・無)

- ・森林整備課 大塚課長補佐

今後は今回説明のあった簡易判定手法を実施しながら植栽可能か判断してもらいたいことになる。その際、傾斜がきつく植栽が危険な斜面上部等は除地という扱いも検討してほしい。

斜面の土壌調査で掘削する間隔などについては、検討のうえ今後改めて情報共有していきたい。

資料の最後の2枚に道(胆振総合振興局林務課)による調査実施結果の一部を参考に付けている。これまでの調査結果から斜面傾斜と土壌条件の間に関係が

ありそうなこともわかりつつあるので、調査を行う優先順位等についても情報提供していきたい。

以 上